

オントナ 4 月 20 日付



札幌宮の沢脳神経外科病院
脳神経外科

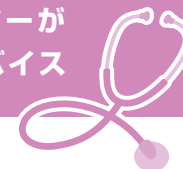
古明地孝宏 先生

1991年札幌医科大学卒業。旭川赤十字病院、北海道がんセンター、市立函館病院などに勤務。専門は脳卒中の外科治療。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医。日本脳神経血管内治療学会脳血管内治療専門医。

お話ししてくださった先生

脳梗塞の最新治療はこれだ！ 「ステント型血栓回収デバイス」と「極太吸引カテーテル」

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



脳の血管に詰まった血栓を、
取り除く画期的な治療法

脳神経外科の外来をやっていると、「突然脳の血管が詰まってしまうのではないか」「そんな不安を抱えている患者さんにお目にかかります。不整脈と言われたことがある人であれば、その危険はそこそこあるといえるでしょう。心房細動や発作性心房細動などの不整脈では、心房内に『血栓』とよばれる血の塊ができやすく、それらがちぎれて脳に飛んでいくと脳梗塞になります。このタイプの脳梗塞は比較的大きな血管が閉塞（へいそく）するため症状が重く、生命に危険が及ぶこともしばしばあります。『tPA』という血栓を溶かす薬が脚光を浴びた時期がありましたが、大きな血栓に対しては効果が弱く、満足のいく結果は得られていませんでした。

ところが最近になり、脳の血管に詰まった血栓を直接回収することができるようになりました。溶かすのではなく、取り除くのです。

これは脳血管内治療の一つで、「ステント型血栓回収デバイス」を使うケースと、「ペナンブラ吸引システム」を使う場合があります。前者は脳血管内に開発された特殊なステント（金属の網のようなもの）に血栓を引っかけて回収します。後者は極太の吸引カテーテルで、掃除機を使ってゴミを吸い取るようにして血栓を取り除きます。どちらの方法も、その安全性と有効性が証明されています。これによって、動かなかった手が治療により動くようになる、言葉が発することができなかった患者が、数時間後には会話ができるようになる、などの劇的な変化を目の当たりにするようになりました。

ここで重要になってくるのが時間です。脳梗塞の場合、どんなに有効な治療にもタイムリミットがあり、それを過ぎると脳細胞は死んでしまい、回復しません。そればかりか、出血を引き起こし、致命的な状態になることもあるのです。

検査や治療の準備にかかる時間を考慮すると、発症から3時間以内には病院に到着していただく必要があります。どちらか片方の手足に力が入らない、ろれつがまわらないなどの症状に気づいたら、すぐに救急車を呼んでください。